

イスタンブール市ベイオウル区における防災対策事業の共同実施について（報告）

1 趣旨

文京区とイスタンブール市ベイオウル区（以下「ベイオウル区」という。）との間で、独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）の草の根技術協力事業を活用し、平成26年度から共同実施してきた防災対策事業が終了したので、実施内容と実績を報告する。

2 事業の目標と目指す成果

（1）目標

ベイオウル区において、住民の生命と財産を自然災害から守るため、住民が地震に関する知識と備えを持つとともに、防災関係機関が災害時に備えた体制を整備する。

（2）目指す成果

- ① ベイオウル区が初めての「防災対策指針」を作成する。
- ② ベイオウル区の住民が、防災の知識を深め、防災意識を高める。
- ③ ベイオウル区の関係機関が、災害時に備えた防災体制を整備する。

3 事業の実施内容

年度	実施時期	主な内容
26	平成27年2月 8日～14日	ベイオウル区の現地調査【派遣人員4名（区職員3名、コーディネーター1名）】 ① 事業概要及びスケジュールの協議 ② イスタンブール市及びベイオウル区の防災対策について受講 ③ ベイオウル区内の防災関係施設の視察 ④ 首相府災害緊急事態対策庁（AFAD）の視察 ⑤ JICA トルコ事務所との意見交換
27	平成27年8月 2日～8日	文京区での研修【受入職員5名】 ① 国、都及び区の防災対策について講義 ② 区内の防災関係施設の視察 ③ 防災対策指針について協議 ④ JICA への成果発表等 ※ 阪神淡路大震災関連施設の視察
28	平成28年8月 ～9月	文京区が防災啓発用DVD（トルコ語版）を制作（2本） ① 「地震に対する自助・共助の備え」 ② 「文京区避難所運営訓練」

平成28年10月28日～11月5日	<p>文京区での研修【受入職員5名】</p> <p>① 地震に対する自助・共助についてDVD視聴と受講</p> <p>② 避難所総合訓練への参加及び振り返り</p> <p>③ 避難所運営図上訓練の実施</p> <p>④ 防災対策指針及び実施計画策定のワークショップ</p> <p>⑤ 防災パンフレット作成のワークショップ</p> <p>⑥ 美術・博物館用免震装置について受講</p> <p>⑦ JICA への成果発表等</p>
平成29年1月18日～22日	<p>文京区での事業報告【受入職員5名】</p> <p>① 防災シンポジウム（JICA への成果発表）・来場者91名</p> <p>② JICA からの講評、修了式</p>

4 事業の実績

文京区での研修を踏まえ、平成28年11月から平成29年1月までの間に、ベイオウル区が防災対策指針の作成等を実施した。

(1) 防災対策指針の作成

ア 指針の目的

イスタンブール県の施策と統合した減災システムを構築し、震災による死傷者及び建築物の被害を減らす。

イ 目標及び記載内容（概要）

(ア) 災害リスクの軽減

自助・共助・公助について示すとともに、自助の備えや地域単位での防災活動について防災教育及び訓練の必要性を記載。

(イ) 効果的な防災手法及び防災管理システムの導入

国等の関係機関と編成する災害時体制や、職員の参集、ベイオウル区における非常時優先通常業務の取扱いを記載。

(ウ) 復旧・復興への過程の模索

産官学民の連携とともに被災者の参加により復旧政策を策定することを記載。

(エ) 持続可能な災害管理の実現

関係機関との連携や協力体制の確立、人材及び資材の確保、住民への啓発、安全な住居地区の開発等を記載。

(2) 住民への啓発

ア 防災パンフレットの作成

パンフレットを3種類（住民向け（一般用・子ども用）、区職員向け）作成し、防災講習会でも配布した。

イ 防災講習会の実施

区が制作したDVDを上映するとともに、防災パンフレットの説明や、区が提供した防災資器材の展示等を行い、自助と共助の重要性等について啓発した。

ウ 防災マップの作成

地震で避難が必要になった場合の避難先（学校等）を地区ごとに示す防災マップを作成した。

(3) 防災体制の整備

ア ベイオウル区職員向け防災講習会の実施

イ 災害救助隊の編成

ベイオウル区職員と民間事業者（建築業等）の連携による災害救助隊を編成した。

ウ 災害救助隊と AFAD との連携による防災訓練

災害救助隊が AFAD との連携により、救助・救急活動等の訓練を実施した。

5 今後の対応

文京区・ベイオウル区友好都市提携協定に基づき、防災に関する情報交換等を行い、引き続き相互に防災対策の更なる向上を図る。